T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録, 米朝首脳会談の舞台となったハノイ、今後の知的財産研究へのリーダーシップを期待
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 116, No. 5, pp. 28-29
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 116, No. 5, pp. 28-29
発行日 / Pub. date	2019, 5

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

知財見聞録

米朝首脳会談の舞台となったハノイ、今後の知的財産研究へのリーダーシップを期待

東京工業大学 工学院 経営工学系・経営工学コース 教授　田中 義敏

米朝首脳会談の舞台となったハノイ

去る２月22日から26日までハノイを訪れ、国立経済大学で講義を行ってきた。翌27、28日には米朝首脳会談が予定されており、筆者の訪問はその直前であった。

筆者がハノイ入りしたのは22日の夜。数年前に一新されたノイバイ国際空港は５日後に迫った首脳会談の大きな影響もなく、近代的な空港ビルの割りには入国手続きに若干時間がかかったものの、普段とほぼ同じ状況だったようだ。

ホテル周辺

米朝首脳会談の会場は直前まで発表されなかったが、ハノイの伝統的なホテルであるソフィテル・レジェンド・メトロポールで開催された。ホアンキエム湖から東へ２ブロック目の旧市街地に位置し、コロニアルスタイルでクラシカルな雰囲気が漂う、すてきなホテルである。

筆者の滞在したホテルはソフィテル・レジェンドから南に３ブロックほどの場所で比較的近かった。

帰国の途に就く26日の朝、道路状況や空港での車両規制などを心配して、早めの配車を依頼したが、案の定、市内にはバイクがあふれ……、タクシーがホテルに到着するまでにかかった時間は約30分。ようやくタクシーに乗り込んだものの、空港への通常のルートでは走れず、かなりの遠回りをして空港に向かった。

首脳会談の会場となったホテルの周りに集まってきた、両首脳をじかに見たいという見物人の人だかりが混雑の原因とのことだった。

ベトナム経済成長の秘訣（ひけつ）

ベトナムの経済成長は目覚ましい。実質GDPベースでの経済成長率は、2017年6.81％、2018年はIMFによる推計値で6.60％。毎年訪越し多くの友人を持つ筆者は、ベトナムの経済発展の秘訣を以下のように推論する。

第１に、教育熱心なことが挙げられる。特に数学、計算、コンピュータ分野での習熟度が高いようだ。幼いころから多くの教育機会を与えているように思う。

早くから家庭教師をつけたり、塾に通わせたりするなど、日本の1960～70年代ごろの姿に似ている印象だ。自宅にピアノを置いて幼少期から音感教育に力を入れている家庭も多い。

また、以前にハノイ工科大学を訪問した際、地方の家族からわずかな支援金をもらってハノイで勉学に励む若者の熱心さに驚かされたことがある。学生寮に案内してくれた先生は、「彼らは在学中、実に厳しい生活環境にある。しかし、無事に卒業すると立派な青年として社会に出て活躍する」と言っていた。そして、若者たちは教育機会を応援してくれた両親への感謝の気持ちにあふれていた。気楽な学生生活を送るつもりはなく必死に勉学に励んでるのだ。

第２に、若者の就業意識、産業界への貢献意識、ビジネス意識が非常に高いようである。筆者の研究室に所属していたベトナム人留学生は実に高い志を持っていた。卒業後しばらくは日本に残って日本企業に就職してビジネス経験を積みたい。そして、帰国したら自分のビジネスを立ち上げたい。組織への帰属意識、高い志は、国家の発展にも大きく影響する。

この点は、人々の生活意識、価値観、人生観などにも関係してくると思うが、国家一丸となって国づくりを進めている姿は顕著であり、他国と比べると全く衰えることを知らない。

海外で勉強してもいずれ自国に戻り、国のために貢献する。しかも、ベトナムの産業と何らかのつながりを持った企業への就職を希望するため、頭脳流出の心配が生じることもない。実に、愛国心の強い国民のようで、これが高い経済成長を支えているのではないかと思う。

なぜベトナム人は国家に対する忠誠心が高いか？　街中の書店をのぞいてみると、ホー・チ・ミンの自伝がたくさん平積みになっている。ベトナムに独立をもたらした偉大なホー・チ・ミ

ンの思想が知らず知らずのうちに国民の心に影響を与えているのではないだろうか。

知的財産研究をリード

アセアン地域における知的財産研究の動きとして特筆すべき事例がベトナムにある。それは、科学技術省の下部機関として、ベトナム知的財産研究所（Vietnam Intellectual Property Research Institute；VIPRI）が設置されていることである。

ベトナム知的財産研究所は、2007年に科学技術省の政府研究機関として設立され、ベトナムにおける知的財産研究の舞台となっている。筆者も2016年11月にベトナム知的財産研究所と日本の工業所有権情報･研修館（INPIT）の共催でホーチミン市において開催された「知的財産権の商業化」と題するセミナーに招かれ講演をしてきた。

主な業務内容は、知的財産分野の調査研究、研修、コンサルティングおよび知的財産の裁定のための鑑定などで、具体的には、知的財産法、知的財産に関連する経済学、技術およびマネジメントの分野の研究や研修を行っている。

また、国内外を問わず知的財産に関連する組織と、知的財産の知識や経験等の意見交換を行っている。

さらに、企業や政府機関を対象にした知的財産マネジメントのトレーニングコースや、一般市民を対象にした知的財産への意識を高めるためのセミナーなども実施している。

知的財産研究は、知的財産に関する課題について、現状認識、解決すべき課題、解決策としての仮説定立からスタートして、基本的な事項から各種データに基づいた説得性を持った論理構成で仮説検証を進めていくものである。専門家による知的財産研究の論理的な議論をもって、あるべき姿に近づくことを可能とするアプローチであり、知的財産政策の立案や実行に重要な役割を果たすものである。

ベトナムのリーダーシップの下で、アセアン地域における知的財産研究が進展することを願うところである。

アセアン地域の知的財産研究所設立の可能性

将来はベトナムがアセアン地域で強い指導力を発揮していくような気がする。アセアン10カ国はさまざまではあるが、地域の発展のための活動は間違いなく活発化し、アセアンを含む国際フォーラムも多様化してきている。また、知的財産分野におけるアセアンの活動も着実に進展してきた。そんななかでベトナムはキラリと輝く存在だ。

ベトナムがリーダーシップを発揮する「アセアン知的財産研究所」の設立および活動を日本が支援する日が来ることを期待する。

小島が浮かぶハノイの景勝地ホアンキエム湖

国立経済大学での講義を終えて